

いきいき



発行：寒河江市 農業委員会

さがえ 農の風景



ストックを収穫する土田さん家族

家族みんなが経営者 家族経営協定

農業経営に携わる家族が、作物の生産管理の責任分担や賃金、労働配分などを決めて共同経営を展開していく「家族経営協定」。

三泉の土田彦雄さんの家では、令和5年2月に奥さんの直子さん、長男の真澄さんとで同協定を締結した。締結すると、共同経営者となり、各々が認定農業者制度を生かしたり農業者年金の有利な制度への加入が可能になったりとさまざまなメリットがある。「スムーズな経営移譲をするため、今から準備が必要だと思った」と同協定締結をした経緯を語る彦雄さん。

現在、水稻、大豆、加温さくらんぼ、露地（雨よけ）さくらんぼ、ストック、スモモを栽培している。役割分担は、水稻、大豆は彦雄さん、果樹と花は真澄さん、経理全般は直子さんが中心（主）となって従事し、それをサポート（従）する形で各々が従事するようにしている。「猫の手も借りたいほどの農繁期は、主従関係なく全員であたるしかないが、分担を決めたことで作物へ目が行き届くようになった。また、長男は任せた作物に対し責任感が出てきたと思う」と彦雄さんは語る。

今後の経営について真澄さんは「気候変動や人手不足の対応などさまざまな課題はあるが、スマート農業などを取り入れて、高品質な農産物を生産していきたい」と語っていた。

各地域で「農地の将来を考える」 ワークショップを開催

令和6年度中の策定が義務付けされている「地域計画」および「目標地図」の検討を行うため、市内7つの地域において、計4回のワークショップを実施しました。そして安全・安心な食料の供給を維持するため、地域として農地をどのように守っていくかという大切な話し合いを行いました。ご参加いただいた皆様、誠にありがとうございました。

今後、話し合ったご意見を取りまとめ、令和7年3月に公表します。公表後も年1回程度、継続してワークショップを開催し、地域計画と目標地図の評価・見直しを実施していく予定ですので、引き続きよろしくお願い致します。

令和6年5月、8月、11月、12月に市内7つの地域でワークショップを開催。農地1筆ごとに、10年後の在り方を検討しました。

ワークショップの様子



(寒河江地区) 令和6年8月29日
ハートフルセンター



(南部地区) 令和6年8月30日
南部地区公民館



(白岩地区) 令和6年11月19日
JAさがえ西村山 白岩ふれあいセンター



(西根地区) 令和6年12月13日
JAさがえ西村山 西根支所

各地区での意見を取りまとめ、令和7年3月に
「地域計画」および「目標地図」の公表を行います

創立70周年記念式典・ 令和6年度会長代表者集会にて活動事例を報告



事例報告を行う木村会長

全国農業会議所創立70周年記念式典・令和6年度全国農業委員会会長代表者集会が、令和6年11月28日に東京都文京シビックホールにて開催され、全国の農業委員代表者が参集しました。

本集会では、功労者に対する農林水産大臣感謝状の授与などの記念式典行事を行った後、公益財団法人日本農業研究所の生源寺眞一氏から、これまでの農業を取り巻く環境の変化や状況の経過、そして近未来の農業や農村の発展に向けた考え方について基調講演が行われました。

その後、当農業委員会の木



全国の農業委員会会長に対し、事例報告を行った

村会長と事務局の木村主任が、地域計画の策定と今後の取組みについての活動事例報告を行いました。

寒河江市では令和7年3月の公表を目指し、農業委員会が中心となって各地域におけるワークショップを複数回行っており、各関係機関が連携して取り組んでいくことの重要性を報告しました。

最後に、「食料安全保障の強化や、地域計画の策定と実現に向けた取組みの強化」などの大会決議事項の実現に向けて、ガンバロウ宣言し、閉会しました。

行政視察報告



農業委員会の活動もICTが求められており、当農業委員会でも地区ごとにタブレット端末が貸与され、地図アプリを利用した農地情報の把握を行っています。

ICTのさらなる活用法やその意義を研修するため、先駆的にタブレット端末を活用している茨城県笠間市へ8月6日、7日に行政視察に行っていました。

笠間市の農業委員会ではタブレット端末を委員全員が活用し、総会などの通知や各種資料のペーパーレス化を実施しております。各農業委員が農地利用状況調査



研修時の様子



参加者全員での集合写真

や現地確認調査を行う際、データを閲覧できるためとても便利で、事務の効率化や経費削減などの成果が得られ、定例総会のWeb会議化にも取り組んでおりました。

2日目は市内の農業関連施設を見学。笠間市は日本有数の栗産地で、道の駅や産直施設はその地域性を生かした商品が並び、平日にも関わらず多くの人でにぎわっていました。

笠間市農業委員会の取組みやタブレット端末の活用方法を学び、私たちも臆することなく新しい機器の利用に取り組みたいと実感しました。

(奥山浩二委員)

女性農業者のつどいを開催

令和6年11月5日に、市内の女性農業者の方々と鮭川村の「熊ちゃんなめこ」を視察しました。なめこ栽培を行っているこちらのお店は父からの仕事を受け継いでいる娘さんが、家族と共に笑顔で頑張っているのが印象的でした。

なめこは部屋ごとに季節を想定した温度調整を行い、成長を促進しているため、徹底した温度管理が必要だとか……。

どの業種もそうですが、物価の高騰による影響が甚大であるものの、消費者のことを考え、販売額は昔からほとんど変わっていないそうです。



熊谷氏からの説明を受ける参加者の皆さん



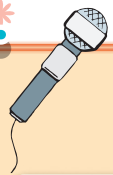
「はい、なめこ!」となめこポーズで集合写真を撮影

少しでも応援できればと、その場でなめこを箱ごと購入した方がたくさんいらっしゃいました。なめこ収穫の体験も行っていたので、皆さんとても楽しそうでした。その後、戸沢村の「高麗館」で昼食と施設見学を行い、尾花沢市の道の駅「ねまる」を見学し帰路につきました。

帰ってきた時は夕食も近く、とても寒くなっていましたので「今晚はなめこ汁で温まりましょう」と話をして解散しました。とても有意義な一日でした。

(布施委員)

いいきいレディー インタビュー



子どもたちも一緒に
楽しく農産物と
触れ合っています。



おかべ ゆうこ
岡部 優子さん
(西根：42歳)

今回は、日田地区で小松菜の収穫作業を行っている岡部優子さんにお話を伺いました。

岡部さんは元々農業をするつもりはなかったとのことですが、県外在住時に結婚した夫から「山形で炭焼きや農業をやりたい」という思いを聞き、「私も一緒に農業をしよう」と決心し、農業の研修と一緒に始めたのがきっかけだそうです。

現在はさくらんぼ、なすを中心に、果樹や野菜を約2ヘクタールの農地で栽培しています。

優子さんは家族みんなで農業ができるよう、可能な範囲で子



小松菜を収穫する優子さん

どもたちも一緒に作業場へ連れて行きます。

たまに「ママって何のお仕事をしているの？」と聞かれるほど、お子さんたちにとって樹園地や畑は「働く場」ではなく「遊びの場」としてなじみ深い場所になっているようです。

農業を始めたころは譲り受けた農地を守るため、毎日必死に農作業をしていたと当時を振り返る優子さん。

お子さんが生まれ、子育てをする中で「食育」を意識するようになり、夫の献身的な協力も受けながら、今では子どもたちとの時間を大切にしつつ、子どもたちにも野菜や果物が成長する過程を学んでほしいと感じているそうです。



作業場にも子どもの遊び場を作っています

新規就農を目指す方へ向けて「寒河江は同じ境遇にいる人や親切に教えてくれる方がいっぱいいますよ。一人で始めたいという気持ちもあるかもしれませんが、最初はあまりこだわらず、まずは先輩たちからのアドバイスを聞きながら、自分なりの経営を見つけるとスムーズにいくと思います」とメッセージをいただきました。

今後、子育てが落ち着いてきたら「農業の経営とは別に地域に『食育』を普及する取組みをしていきたい」と笑顔で語っていた優子さん。農業の特長を生かした子育て世代の農家の新しい働き方を教えていただきました。

(西尾委員)

老後の生活のサポートのため 農業者年金に加入しましょう

60歳未満

国民年金第1号被保険者
(保険料免除者を除く)

年間60日以上農業に従事

の3つの要件を満たせば、どなたでも加入できます。

1. 安全性を重視した運用のため、少子高齢時代に強い年金です。
2. 終身年金で、80歳前にお亡くなりになった場合には、死亡一時金をお支払いします。
3. 公的年金ならではの税制上のメリットがあります。
4. 通常加入なら、保険料の額は自由に選べます。
5. 政策支援加入なら、保険料の国庫補助があります。



詳しくは農業委員会事務局までお問い合わせください。

2024年8月発行のさがえ市農委広報「いいきい第85号」に掲載しました次の記事におきまして、読み仮名に誤りがありました。深くお詫びするとともにここに訂正させていただきます。

4ページ 「いいきいレディーインタビュー」

(正) 佐藤 愛海さん
(誤) 佐藤 愛海さん

編集後記

昨年は寒河江市各地区で「地域の農業の将来を描こうワークショップ」が計4回にわたって行われ、多くの農業者の皆様方からご協力をいただき誠にありがとうございました。

新型コロナウイルス感染症の影響もだいぶ落ち着き、地区の農業者が一堂に会して集まれるようになり、ワークショップという気軽に話し合える場の大切さを、改めて感じさせられました。

農業に限らず、地域のコミュニティ精神を深めながら、生まれて育った地域を緑豊かで活気ある場所として守り育てていく必要性を強く感じた一年でした。

(氏家理香委員)